

## 僕の兄

会津若松市立一箕中学校 1年 佐藤 怜央

「障害者」と聞くとどうしても引っ掛かりモヤモヤする表現だと思っている。皆さんは障害者に対してどんな印象を持っているだろうか？最近では障害者に対する意識がだいぶ変わりつつあるが、口にしなくても「かわいそう」「変な人」「気持ち悪い」と少なからず思ったことはあるだろう。僕も昔はそうだった。でも後に述べるが、僕が障害者に対する気持ちががらりと変わる出来事があった。

僕には障害者の兄がいる。母のお腹の中にいる頃から骨の病気を指摘され、実際に病気を持って産まれてきた。軟骨が形成されない病気で手足が短く、身長が伸びづらい病気だ。小さい頃はそれほど目立つことはなかったが成長するにつれて周りの人間とだいぶ差が出てきてとても目立つようになってきた。小学校時代は友達にからかわれ、顔には出さずとも毎日嫌な思いをしていたに違いない。僕は昔からずっと一緒にいて「それ」が当たり前なので全くおかしく思わない。ただ、世間の目は冷たい。街中で兄を指差し

「変な人がいる」

と、子供が笑う。子供は正直なのでそれは仕方がないことだ。だいたい親は子供を注意するが中には一緒になってヒソヒソと話す親もいる。昔からそういった経験をしてきている兄は全く気にもせず笑っている。僕なら嫌な気持ちになり落ち込むと思うが兄は強い。

兄は生活面でもかなり苦労している。身長が低いので高いところの物が取れない、学校の机と椅子のサイズが合わない、手足が短いので普通のトイレで用を足すのが困難であるなど人の手を借りないと生活するにも不自由だ。それでも周りの人間の力を借りたり、自分で頭を使い工夫して生活している。そんな兄が中学に入りなんと野球部に入部したいと言い出したのだ。ただでさえ体を使うスポーツであり仲間との協力が絶対なチームプレーなのでチームメイトに迷惑がかかってしまうと家族全員が絶対に無理だろうと思い反対した。だが兄は反対を押し切り野球部に入部した。

僕はどうせ長続きしないだろうと思っていたが、体の大きさが倍近くある他の部員と同じ練習メニューをこなす毎日楽しそうに汗を流している。試合にこそ出場はできないがベンチを温め、チームのムードメーカーとしてある意味活躍している。誰も兄を厄介者扱いすることなく共に笑い、共に喜び、共に泣いてくれる。そんな兄の影響を受けて僕も中学に入り野球部に入部した。先日、練習試合ではあるが、監督のご厚意で兄が試合

に出たことがあった。まぐれなのか実力なのか、その小さい体でヒットを打ったのだ。その瞬間、チームメイトも応援してくれている親もまるで自分のことのように大喜びし大歓声をあげていた。初めて兄の背中が大きく見えて少しカッコよくさえ思えた。

先日、何気なくテレビで甲子園を見ていた時のことだった。解説の人が、

「この選手は生まれつき左手の指がありません。」

と言った。僕は何かの聞き間違いかと思いテレビを見るとそこには本当に左手の指がない選手が映っていた。僕はテレビに釘付けになった。しかもその選手が打って守って大活躍していた。僕は衝撃を受けた。ただでさえ高校球児の夢の舞台である甲子園に重度の障害を持つ人が背番号を勝ち取り試合に出場し大活躍しているのを見て僕は情けなくなった。

僕は何不自由なく生活し野球をやっているだけでも試合にすら出してもらえない。おそらくこの選手は他の人の何十倍、いや何百倍も努力しているに違いない。障害に負けず立派に戦う選手を見てとても感動し勇気をもらえた。

こういった色々な経験を元に、最近、僕が障害を持つ人に対するイメージがだいぶ変わってきた。障害者＝障害を受け入れ、乗り越え戦う強い戦士だと思う。僕にも障害者の家族がいて他の人よりは障害者に対する接し方がわかっている気がしていたがまだまだ足りない気がする。これからは障害と向き合う人達を尊敬し、助け合い、サポートしていくことを心に誓おうと思った。障害があることで苦しい思いや辛い思いをしている人はたくさんいるだろう。でもそれと同時に多くの人達に勇気と力を与えてくれているのも事実だ。僕は将来、少しでも障害がある方々の力になれる仕事に就けたらいいと思っている。